



Title	日本列島におけるニフトコの歴史生態学的研究
Author(s)	平岡, 和
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。利用可能日以前の閲覧方法は https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/ をご参照ください。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第16972号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16972
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99816
Type	doctoral thesis
File Information	Nodoka_Hiraoka_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名： 平 岡 和

審査委員	主査	教授	高 瀬 克 範
	副査	教授	江 田 真 毅
	副査	准教授	久 井 貴 世
	副査	准教授	那 須 浩 郎（岡山理科大学）

学位論文題名

日本列島におけるニワトコの歴史生態学的研究

・当該研究領域における本論文の研究成果

ニワトコ属 (*Sambucus*) は、日本列島の考古学的遺跡から果実内の核が数多く出土することが知られている植物である。日本列島では呪術祭祀具や肥料としての枝葉の利用は伝承されてきているが、果実利用に関わる情報はほとんどなく、アジア全域でもその利用に関わる民族例はきわめて限られている。本研究は、謎に包まれているニワトコ属の過去 6 千年あまりの歴史を、人類との関わりをもとに解明することを目的としている。

観点および方法として特筆すべきは、1) 人類史と生態系史を分け隔てなく扱う歴史生態学的な枠組みの採用、2) 中核的な分析資料の豊富さと網羅性（縄文文化期から近世にいたる 92 遺跡出土の 6,100 点以上）、3) 栄養学的な分析の併用（食料としての重要性を示す成分の分析）、4) 実験的手法の採用（加熱処理による栄養成分変化の検討、加熱や水浸による核の変形の検討）、5) 欧米を含む民族誌や歴史史料からの情報収集、6) 遺跡内でニワトコ属が出土する位置や一緒に出土する植物の組合せへの配慮、などがあげられる。核のサイズに着目したオーソドックスな考古植物学的な検討だけではなく、こうした多角的な視点にもとづいて総合的なニワトコ属と人類の長期的関係史の復元に挑んでいる点が特徴である。

最大の成果は、長期的な時間スケールのなかでニワトコ属果実のサイズ変遷が明らかにされた点である。縄文文化期のニワトコ属果実は日本列島東部、とりわけ北海道島、本州島の東北部や日本海側中央部、中部高地を中心とする地域で大きい傾向があり、現在のエゾニワトコに類似する大きな果実が分布していた。これは少なくとも縄文前期以降、エゾニワトコの分布範囲が大きくは変化していなかった可能性が高いことを示唆している。また、縄文文化期よりも新しい時期には、北海道島を除く多くの地域で核のサイズ縮小やその出現率の低下が生じており、人類の果実利用が低調になったり、枝葉の利用の重要性が高まったりした可能性が指摘されている。一方で、核サイズの縮小や出現率の低下が見られない北海道島では、積極的な果実利用が長期にわたって継続していたと考えられている。縄文文化期とそれ以降でニワトコ属の利用が大きく異なっていたことに加えて、北海道島がニワトコ属利用の面で特徴的な地域であった点をはじめて明確にした点に大きな意味が認められる。このほか、ニワトコ属を主原料とした酒造仮説の棄却、ニワトコに対するエゾニワトコの栄養学的な有用性の高さ、核のサイズを用いた果実の大きさの復元手法の開発、核の加熱・水浸実験にもとづく形態学的分析の手法開発など、今後の研究にとっても基準となりうる成果を数多く含んでいる点も注目に値する。

論文の口頭試問においては、本州島日本海側に分布する変種であるオオニワトコの現生標本を扱うことができていない、歴史生態学的研究を標榜する以上は更新世の化石資料のほか、近世の本草学関連の文献や農書、絵画資料なども扱うべきではなかったか、といった問題が指摘された。しかし、執筆者本人も自覚しているこれらの課題は今後の検討によって解決することができるものであり、現状ですでに高い学際性が担保されている本研究の意味を減じるものでは必ずしもない。何よりも、現時点で利用可能な出土資料を悉皆的に分析し、過去 6 千年間における日本列島のニワトコ

属と人類の関係史にかかわる大きな見取り図を提示した点，ニワトコ属の総合的な研究を切り拓いた点に，本研究の重要な学術的意義を見出すことができる。

・ **学位授与に関する委員会の所見**

以上の審査結果に基づき，本審査委員会は全員一致して学位申請者に博士（文学）の学位を授与することが適当であるとの結論に達した。